

次期京都市観光振興計画に関する観光事業者等からの主な御意見

【交通事業者】

- ・一時的に減少しているが、都心の混雑する観光地から京都市外縁部への観光客のシフトを促すことが望まれる。これにより、都心部および路線バスの混雑緩和、輸送力が大きい鉄道による外縁部の観光地への円滑なアクセスにより、市民生活と観光の調和に資する。
- ・マイクロツーリズムの実現に向けて、関西近郊、日帰りにおける誘致施策に力を入れるべき。
- ・「京都は観光目的地として当然に選択される」という前提をなくし、京都という街の姿がどうあるべきかをもう少し具体化していった方がよい。京都らしい景観が残る街並みなど、「その土地独自のものを残していく」という視点が重要。
- ・多くの大学・学生が存在する京都のポテンシャルを活かし、留学生や就業者についても広義の観光客と捉え、誘致（居住促進含めて）を図るべきではないか。具体的には、スタートアップの集積拠点化、美術・芸術系学生の展示・販売の場を増やす等。
- ・多くの文化遺産を有する京都の特色を活かした観光をより一層深度化していくためには、観光・文化・教育（学び）が一体となった行政運営も必要ではないか。
- ・場所の分散化の観点からはより広域の連携、時間の分散化の観点からは夜観光の充実が課題。
- ・京都は混雑しているとのイメージを持っている者が多く、その払拭が必要。
- ・「市民・観光客・事業者・未来 四方よし」の考え方は地方創生のビジョンとも合致しており、望ましい。
- ・オール京都で「おもてなし」を実感してもらえるようにしていくことが重要。観光客を迎えていくことについて、市民向けの啓発も必要。
- ・日本で一番、安全・安心なまちづくり（バリアフリー対応、コロナ対応等）にするとともに、それを内外に幅広く情報発信することが必要。
- ・各方面へ修学旅行誘致キャラバンを展開し、安心・安全のPRを行うことが必要。
- ・密を避けるための観光施設の分散や新たな観光施設の整備等が必要。

【旅行会社】

- ・着地型観光について、まだまだ取り入れられていないように感じる。京都の観光資源の情報発信や講習会、環境問題等の課題を含めた意見交換の場があればありがたい。
- ・古きを残し、更にワクワクしたものづくりを進めていくことは、歴史の深い京都にしかできないことであり、市民にとっても誇りである。
- ・路上喫煙や自転車通行禁止区域、駐車場の場所や空き情報など、観光客だけでなく観光事業者にも役立つ、観光公害を防ぐ情報を、アプリの開発など時代に合った方法で提供できればよい。
- ・言葉が通じなくても、丁寧に道案内をしたり、さりげなくごみを拾ったりする姿だけで観光資源になる。市民が街を好きになっていただくことで、おもてなしの意識も高まり、観光客の満足にもつながる。
- ・インバウンド中心の誘客から転換していくことが重要。また、団体から個人単位への観光形態の変化への対応が必要。

- ・京都の伝統文化や伝統産業を限定的に観光資源化する。一見さんお断りの慣習を見直して観光客も体験できるようにする。
- ・観光バスの路上駐車対策の徹底による渋滞の緩和が必要。
- ・富裕層客を大切にしていくことにより、リピーターの満足度上昇や観光客の分散化につながる。
- ・観光施設の開館などによる朝時間の有効活用の促進。
- ・「桜」、「紅葉」、「世界遺産や有名な社寺」と言った、これまでのキラーコンテンツ以外に、京都のみがもつ街の空気感や文化にフォーカスしていくことが重要。
- ・感染症対策と観光の両立は、事業者としても引き続き検討していくことが重要。

【宿泊事業者】

- ・バスからバスへの連携、バスから地下鉄への連携、一日乗車券の京阪、阪急、JRへの拡充などを通じて交通を分散化することが必要ではないか。
- ・夜観光の推進により、時間の分散化を進めていくことが必要。
- ・宿泊業界として、どのようにして宿泊トラブルを減らしていくかが課題。
- ・行政によるパトロール、観光客へのマナーの呼びかけなどの実施などにより、観光客マナーの向上を図っていくことが重要。
- ・日帰り客への課税や、マイカー規制等の検討により、日帰り客のコントロールが必要ではないか。
- ・閑散期にこそPRを展開し、シーズナリティの分散化に取り組む必要がある。

【観光・文化施設】

- ・施設単位だけでなくエリア全体での観光の活性化を図るべき。エリア活性化の核となるような団体があることが望ましい。また、美術館や博物館同士の連携も強めることも重要である。
- ・夜間開館を実施しているが、周辺に夜に開いているお店も少なく、集客が難しい現状がある。効果を高めるためには、他の施設や事業者と連携して取り組む必要がある。
- ・観光客（特に外国人）とのトラブル対応のマニュアル等があればよい。対応のノウハウがなく困っており、他の施設や事業者がどのように対応しているのかわかればありがたい。
- ・国内旅行客は大事である。京都でしかできない体験を盛り込んだ商品を造成するなど、着地型の観光をしっかりと進めていかないといけない。
- ・京都こそマイクロバス観光を進めるべきである。大型バスでは通行できないようなところに、着地型で提案するような名所が多い。分散化にも資する。
- ・国内旅行客を呼び込むためには、今後、源氏物語や平家物語など文化を俯瞰できるような京都観光、平安京を俯瞰できるような企画も必要。日本人は歴史が好きな客が一定層いる。
- ・近年はインバウンドに注力し、日本人を後回しにしてしまった感がある。それも一旦もとに戻さないといけない。

【MICE施設・関連事業者等】

【MICE施設】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、当面は国内需要の喚起に強める必要がある。
- ・国立京都国際会館の5,000人規模のホール整備は必要不可欠だと思う。
- ・市内で関連イベント等が行われ、市民が携われるような会議の誘致が必要。
- ・抗ウイルス加工を施すための補助が必要。

【MICE事業者等】

- ・京都が有するポテンシャルの更なる活用によるMICEの推進を図り、世界屈指の洗練された魅力を備えたMICE都市を目指す必要がある。
- ・市民公開講座の情報の積極的な発信による、公開講座参加者数の増加を図る必要がある。
- ・大学・PCOと連携し、ボランティア機会を設けるなど、学生によるMICEへの参加機会を創出する必要がある。
- ・海外コンベンションビューロー・都市との連携により、将来を担うビューロー職員の育成強化が必要。
- ・大阪・関西IRと連動させたMICEの立案が必要。

【経済団体】

- ・先日、日本のある企業が中国国内のSNSで嵐山、竹林、清水寺などを紹介していた。分散化という意味では他の地域を紹介してほしい。
- ・市民が安心・安全で生活できることが一番大事。市バスは場所によって混乱が生じている。ハワイのトロリーバスのような観光地を周遊する交通手段を京都でもできないか。
- ・国際会議場は、1万人程度収容できないと各国から集まらなないと聞いている。より積極的なMICE誘致に力を入れていただきたい。
- ・京都にとって、なぜ観光が大切か、どういった恩恵があるのかをまとめ、伝統文化の継承、持続的な観光というミッションをはっきりさせた上で、京都市は、市民や関係者にどのような行動をとるべきかを知らしめることが大事
- ・次期計画は、過去の計画を一度リセットし、新たにスタートするという位置付けを期待。京都として品格のある計画をお願いしたい。
- ・目標設定は、定量的な動きをどう作るかが大きなポイント。富裕層対策は必要かもしれないが、戦略的にうたうのであれば、全国、全世界から分け隔てなく来ていただくことが、目標設定に表れるべき。
- ・観光従事者に対する視点が欠けてはいけない。観光従事者の視点を含んだ計画にし、表現にも注意してほしい。
- ・富裕層など貧富の差を固定化し肯定するような表現は適当ではない。
- ・修学旅行生対象人数は減少していくが、修学旅行で初めて京都に来て、将来の京都ファンになっていただけるかどうかは、非常に大きなところであり、修学旅行誘致に力を入れていただきたい。
- ・京都観光行動基準について、市内、田の字地区における観光客向けのマナー表示が非常に少ないため、できるだけ多くしていただきたい。

- ・世界における人口推移と将来を見据えるとデジタル産業がますます進む。2025年には、世界において1980年以降に生まれたデジタル世代の労働力が75%を占め、アジア地域においても、非常に高いウエイトを占める。彼らに対応できる環境を整えられるのか。そのためには、観光従事者に若者を起用することと人材育成が必要である。
- ・インバウンドが爆発的に増えて逆効果として日本人客が減ってしまった。コロナが明けた時に同じことが起こらないような整備を観光事業者と細かく詰めていくことが必要。
- ・次期計画のキーワードの「持続可能性」は大変重要である。
- ・京都観光は、経済の持続可能性、安定化のみならず、京都の文化・芸術・暮らしの文化を下支えする観光であってほしい。
- ・京都観光の経済面でのキャパシティを考えると国内の観光客だけでは需要が足りない。平準化、平日の宿泊促進、長期滞在の促進という観点からも、特にインバウンドをしっかりと取り込んでいくことが必要。
- ・京都府域とも連携した広域的な取組も反映していただきたい。